

# 特集

## ぬまたは化石の宝庫

昭和60年に故山下 茂氏が幌新太刀別川で発見した「ヌマタネズミイルカ」に関する研究が進み新たな発見がされました。

今月号は、研究の成果を特集として掲載し、沼田町の化石が世界的に貴重であるということを知っていただければと思います。

はじまりはサイの化石から！

沼田町最初の化石は昭和22年に昭和地区から発見された「アミノドン」というサイの化石です。

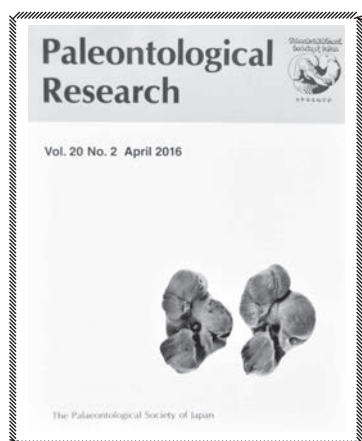
この化石は北海道大学に送られ、当時の東京大学高井冬二教授が研究しました。この標本は現在、北海道大学総合博物館で収蔵されており、沼田町化石体験館ではレプリカを展示しています。

沼田町で化石が保存・管理・研究がされるようになったのは、昭和60年に山下 茂氏(当時秩父別中教諭)が「ヌマタネズミイルカ」の全身を発見したことがきっかけで沼田町における化石研究が始まりました。

翌61年には、同じく幌新太刀別川から「ヌマタムカシアシカ」が瀬戸正氏(当時沼田高校教諭)によって発見され、平成2年には木村方一氏(沼田町化石館名誉館長)と山下氏らが共同で論文を発表しました。「ヌマタネズミイルカ」の研究は発見から15年経過した平成12年に、木村名誉館長と教え子の一島博士(現福井



学術誌「古生物学的研究」の表紙。右が一頭目、左が二頭目のヌマタネズミイルカ。沼田町の化石が国際誌の表紙になりました。(古生物学会の許可を得て掲載)



論文のタイトル : A new and ontogenetically younger specimen of *Numataphocoena yamashitai* from the lower Pliocene, the upper part of the Horokaoshirarika Formation, Numata, Hokkaido, Japan. (北海道沼田町の上巻加尾白利加層(前期鮮新統)から産出した新たな若いヌマタネズミイルカ標本)  
掲載誌 : Paleontological Research (古生物学的研究) 2016年4月号, vol.20, p.105-115

見られました。鯨類の骨の中で最も重要な耳の骨であることから研究が開始され、これによって今まで分かっていたなかったヌマタネズミイルカの成長が分かってきました。

さらに三頭目のヌマタネズミイルカも見つかっており、ヌマタネズミイルカの研究は今後、大きく進展することが期待されます。

県立恐竜博物館学芸員) が共同で研究を発表。この2つの論文発表により、沼田の化石は世界から注目される転機となりました。

昨年、沼田町化石館に着任した田中学芸員が収蔵庫を整理していたところ、二頭目のヌマタネズミイルカが発見

## ↑ Interview



まさいち  
**木村 方一**

沼田町化石館 名誉館長  
北海道教育大学 名誉教授

## 沼田町の化石研究・成果と今後の期待

沼田町の幌新太刀別川・雨竜川で発見された化石の個数と種類の数は大変多いですが、その中で最も貴重な化石は、昭和60年に発見されたイルカの全身骨格です。平成12年に一島博士(当時オタゴ大学)と木村が世界にむけて発表しました。発見者の故山下茂教諭の名前をいただき献名としてヌマタネズミイルカ ヤマシタイ (*Numataphocoena yamashitai*) と命名しました。

昨年の4月、沼田町化石館に着任した学芸員の田中嘉寛博士は、保存された標本の再点検をして、第2のヌマタネズミイルカの存在を明らかにしました。研究成果を学術誌に投稿し、今年4月に掲載されました。沼田町化石館からは平成12年以来、16年ぶりの論文出版です。

論文として出版されるにはいくつかのハードルがあります。第1に研究内容が独自性(オリジナリティ)を持っていること。二番煎じは好まれません。第2に科学的な妥当性を持っていること。論理が破綻した主張は認められません。第3に読める英語であること。2人の査読者(チェックをする研究者)がついて、これらの条件を厳しく審査します。そのため論文は一般的な文章に比べて貴重なのです。

今回の論文は英語で書かれていますから世界の研究者に読まれることとなります。沼田の化石が世界に紹介されたのです。その成果から約400万年前の沼田の海岸にいた動物たちの姿が解明するばかりでなく、北海道全域から世界のネズミイルカとの関係を解明しようとするものです。田中博士は第3のヌマタネズミイルカの研究にも取りかかっており、今後の期待が大きいのです。

## ヌマタネズミイルカはたくさん、 400万年前の沼田を泳いでいた

沼田町化石館学芸員 田中 よしひろ 嘉寛

沼田町は化石の宝庫です。中でもとりわけ貴重な化石が昭和60年に幌新太刀別川から発掘されたヌマタネズミイルカです。当館の木村名誉館長らによって平成12年に新種として命名されました。新種として記録された化石は重要です。さらに、ヌマタネズミイルカは全身が連結して見つかり、世界で最も保存状態が良いネズミイルカの化石なのです。

ヌマタネズミイルカは長らく1頭しか知られていませんでした。化石では1種類の生き物につき1標本（1頭分）しか知られていないことが多いのですが、2つ目の標本が見つかるに一層詳しく分かるようになります。

昨年4月に収蔵庫を整理していたところ、手のひらに乗るような小さな骨を見つけました。「これはヌマタネズミイルカに違いない」と思い、研究を開始しました。5月に研究が終わり、その小さな骨が第2のヌマタネズミイルカで、耳の骨であることが分かりました。さらに、第1のヌマタネズミイルカと比べるとやや小さく、若い個体であることも分かりました。この若い2例目のヌマタネズミイルカの再発見によって、今まで分かっていたいなかったヌマタネズミイルカの成長が明らかになりつつあります。さらに第3のヌマタネズミイルカも収蔵庫から見つかり「やっぱりヌマタネズミイルカは1頭だけでなく、たくさん400万年前の沼田を泳いでいた！」と確信しました。

今回の出版は新しい研究の序曲です。研究の積み重ねが、地元沼田町の大昔の歴史を次々と解き明かしていきます。第2のヌマタネズミイルカはすでに沼田町化石体験館で展示しています。

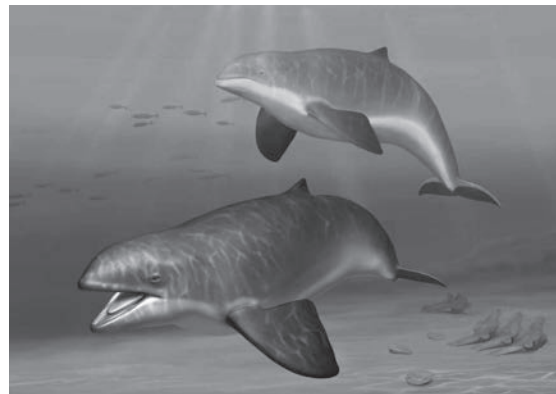
また、ヌマタネズミイルカの発掘の様子は小冊子でまとめており、図書館や当館のホームページで読めるようになっています。沼田町の誇るヌマタネズミイルカを是非、ご確認ください！



4月29日、化石体験館オープニングで来館者にヌマタネズミイルカについて報告した田中学芸員（高山輝寿氏撮影）



「昭和60年に幌新太刀別川で行われた一頭目のヌマタネズミイルカの発掘。一番右が発見者の故山下茂教諭。左から二番目の白いジャケットを着ているのが木村名誉館長（沼田町化石館）」



ヌマタネズミイルカの復元画



# 沼田の化石 最新情報は展示で見られます



沼田町化石体験館（ほろしん温泉向かい）で展示中です。  
沼田町民の方は入館無料です！

## ●ヌマタネズミイルカの展示

沼田町から見つかった化石の数々！ヌマタネズミイルカ発見の物語も、当時の写真や関係者のインタビューで詳しく分かります。



## ●企画展「復元の科学」

今年限定の企画展では、復元画がどのように作られるか紹介します。復元画は想像ではなく、科学的根拠と、最新のデジタル技術と、絵としても楽しめるような工夫が沢山詰め込まれています。展示を見ると復元画の見え方が変わってきます！



「デジタル技術を使った新しい復元方法で描かれたセイウチ化石の復元画」

From Tanaka Y, Kohno N 2015. A New Late Miocene Odobenid (Mammalia: Carnivora) from Hokkaido, Japan Suggests Rapid Diversification of Basal Miocene Odobenids. PLoS ONE: 1-25.

## ○沼田町化石体験館

場 所：沼田町字幌新 3 8 1 - 1 （ほろしん温泉ほたる館向かい）

開館時間：9時半から17時

休館日：月曜日・祝日の翌日

問い合わせ先：35-1029

ホームページ：<http://numata-kaseki.sakura.ne.jp/>

化石発掘体験も人気です！（要予約）

